



NO. 229-1

発行12年 1月 5日

新年あけましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

昨年から騒がれたY2K問題も、さしてトラブルも発生せず、平穩に2000年の幕明けが進んでいます。色んなチェックがなされてきたからでしょうが、ちょっと騒ぎ過ぎたむきがあるかもしれません。

さて今年は20世紀最後の年になります。正月のテレビ番組に、20世紀をふりかえる番組が沢山ありました。民族、宗教、領土、経済色んな紛争の種を武力で解決する愚行は今も世界のあちこちで続いています。地球上から争いが消えてなくなることはないでしょうが、どんな争いも第三者の仲裁がないと治まりにくいものです。それが国連の役割なのでしょう。

さて2000年、2001年は1000年紀の節目にあたります。1000年単位で地球や人類のことを考えるには、人の一生はあまりにも短く遠く考えの及ばないことですが、100年単位なら考えて見ることが出来ましょう。お座興として、21世紀私達のまわりはどのように変わっていくのか想像して見ませんか。まず世界の人口がどんどん膨れあがり2050年頃には今の60億が100億ぐらいになると言われています。しかし、貧富の差は益々高じガンは免疫療法の進歩で治る病気になったものの、又新たな不治の病が発生し、人口の減少が始まるでしょう。日本は島国で、制度の上でも移民の導入を拒んで来ましたが国際的な圧力に抗しきれず、知的労働者に絞って移民受入れを認めるようになりそれを境として高齢少子化の進行にブレーキがかかり、人口の減少も止まるでしょう。改革の先送りを続けてきた咎めを受け、国家財政は破綻し、インフレに苦しめられます。90%が中流意識を持っていた国民の意識もすっかり変わり二極化が進み、中流意識を持つ国民のパーセンテージは50%位になっているでしょう。企業の姿も大きく変わっているでしょう。国際化が進み、サービス分野を除いて生産や流通の分野では巨大企業が世界の市場を支配するようになるでしょう。学校教育も変わり、英語教育に重点をおき、80%以上の国民が英語を自在に使うようになり、公用語として英語が国語と併用される時代になっていると思います。ガソリンで走る車はどの国も生産を禁止するよう求められ燃料電池で走る車に変わっていきましょう。車にナビゲーターが標準装備され、運転者はナビゲーターを操作するだけで、目的地まで自動的に運んでくれるようになります。

携帯電話は桁数が11桁から12桁になり、国際通話が自在にでき、7才位から全員が持っているようになっていきます。パソコン機能と通話機能が一体になっているので個人のマネージャー兼秘書のような役割を果たす必需品になっています。ロボット制作を趣味にする人が増え、ロボットのスポーツ大会とか色んな競技会が開かれるようになります。介護ロボット、目の不自由な人の為の盲導ロボット等、家庭にも色んなロボットが使われるようになっていくでしょう。日本のロボットは精緻で故障も少ないので世界中に人気がありロボット産業は日本の重要産業のひとつになっているでしょう。遺伝子の研究が進み、遺伝子の組み替えなど遺伝子操作による生命のコントロールが可能になり、不老長寿も夢でなくなります。生命倫理が宗教面からも大きい問題として取り上げられます。こんなことを想像していきますと盡きるところがありません。夢のような話はさておいて21世紀の魁ブランドの屋根材はどうなっているのでしょうか。その時代に適した商品として、瑞々しい生命力を保っていて欲しいと心から願っていますが、神のみぞ知るところで次世代の方々に託すよりありません。つまらぬことを書きましたが、正月のお座興としてお許し下さい。最後に各社の益々のご繁栄と皆様の御健祥を祈り、併せて倍旧のご愛顧を賜わらんことを心からお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

☆ 1月の魁基準価格は225円/kgです。

昨年12月の電気銅建値は1～30日220円で終始しました。1月の電気銅建値は230円でスタートしました。従って魁基準価格は $(220+230) \div 2 = 225$ 円となります。デフレスパイラルも終焉を迎え、原油の値上りに初まり非鉄金属の値上りも漸次、推進するものと考えられます。

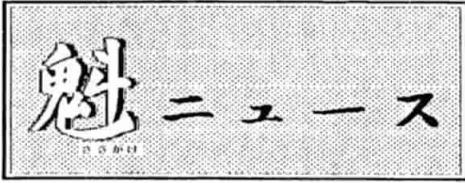


間もなく節分。春への序奏の幕開けである。邪気を払い福を呼び込む豆まきの風習が、昔と違い薄くなってきたが、大声で「福は内、鬼は外」と豆を勢い良く戸外へまくのは、ストレス解消にも良い。年の数だけ豆を食べるのはもう出来かねるが、豆まきは子孫に残し続けたい風習である。昔は頭と骨だけの鯛を藁すべでくくり、軒先に吊し、その臭い匂いで鬼が家に入らないよう、おまぢないをしたのだが、いまでもしてらっしゃるご家庭があるだろうか。切り込んでない巻き鮓を恵方をむいてたべることは、御寿司屋さんのPRも効いて、けっこう沢山のご家庭でしておられるのではなかろうか。核家族化、住環境の変化等によって、多くの伝統風習が消えたり薄れていくのは寂しい。我々の先人は四季折々の大自然の営みに敬虔な思いをよせながら、節々に神に感謝し折り飲食するハレの日を村落こぞって楽しんだ。そのなかからいろんな生活習慣が定着し風習となり今日まで伝えられてきた。時代の変化とはいえ、薄れ消えていく良き風習に一際郷愁を感じるのも、歳のなせることだろうか。

話は変わるが、いま、原油価格が高騰している。99年1月12ドル今28ドル、倍以上である。因みに99年の平均価格は20ドルで、2000年のそれは25~30ドルと予想されている。米国の石油カルテル資本がサウジアラビアと手を組んで進めていることとされている。今、日本のアラビア石油が唯一サウジアラビアに採掘権を有している油田の契約更改を控え、延長契約の折衝が行なわれているが、これが大変難航している。サウジアラビアから更改の条件に新幹線を作れといわれているのだ。台湾のように金を払ってくれるのなら話は簡単だがタダでやれといわれているのだから、無理難題もいところである。要するに出来そうもないことを要求して再契約を拒否しているとしか言えない。アラビア石油という一企業で出来るはずもない巨額の資金が必要であり、国も一企業のために、金融システムの崩壊を防ぐ大義名分で長銀等に出したように金を出すこともできにくいこと故、この折衝の成り行きは気に掛かるところである。これはたぶんにアメリカの石油資本の入れ知恵だろう。日本の資本を追い出し、あとのご馳走を自分らが戴こうという魂胆なのだ。サウジアラビアに詳しい人に聞いたが砂嵐の舞う季節が3ヵ月も続くところで、そんなときはとても新幹線を走らせられないそうである。無理して走らせたら車両トラブルが多発しメンテナンス費用も膨大なものになる。初めからいきっこないことを要求し、採掘権供与国をアメリカに変えようとしているのである。こんな話を聞くとイラク、クエート戦争に90億ドルもの大枚を供出したのは一体何だったんだと言いたくなる。石油資源確保のために必要な国際協力であるから自衛隊の代わりに出したはずだ。政府は速やかにアメリカに邪魔をしないでくれ、サウジアラビアにもアドバイスしてくれと申し入れるべきだ。アメリカは一企業のために大統領自らが動いたりもするが、日本にはそんな動きがない。舐められてもどうにもならない。じつに歯痒いことである。

☆ 2月の魁基準価格は237円です

1月の電気銅建値は4~19日230円20~31日240円で推移し、平均銅価格破234円21銭でした。2月の建値は240円でスタートしました。したがって2月の魁基準価格は $(234.21 + 240) \div 2 = 237$ 円10銭円未満切り捨て237円になります。価格帯は250円以下の欄で変わりませんが、基準価格は12月220円1月225円2月237円と緩やかですが上昇トレンドを描いています。



発行12年3月1日

幹立ちて ひろげつつある 雪間かな (皆吉爽雨)

降り積んだ雪が、春になってところどころ溶け消えてくる。森や林の木立は幹のまわりから溶けてきてだんだん広がっていく。そこからはもう、芽吹き始めた草が顔をのぞかせている。

ことしは、2月に入ってから1月より寒くなり、近畿地方にも雪の降り積もる日がたびたびありました。スキー場は大喜び、このぶんなら3月もスキーが愉しめそうですね。

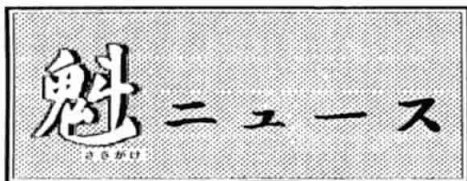
先月アラビア石油のことにふれたが、延長契約はやはり成立しなかった。まことに残念なことである。条件が合わなかったといえればそれまでだが、成立できなかつた一番大きな原因は双方に強い信頼の絆が出来ていなかつたからではないか。ふだんから飲食を共にしながら互いの意志疎通を充分に交わし信頼関係を築いていたら、こうはならなかつたと思えるのである。日本人は外国人とのコミュニケーションが苦手である。文化が違ってもとことんつきあえば、理解しあえ信頼関係が生まれるものだ。アラビア石油のトップにはそれが出来ていなかつたのではないだろうか。外国人とのコミュニケーションにはブロークンでもいいから英語で話が出来ないと話にならない。日本の英語教育は大学受験のため、実用性が軽視されてきた。国際化時代のなかでとり残されないためには、英語を第二の公用語にするくらいの変革が必要である。

奈良東大寺のお水取りの行事修二会が始まり、啓蟄も間近、待ちに待った早春の季節の到来だ。売上も懐も寒い業界にも春が訪れますよと言いたいところだが、建築業界は蚊帳の外。残念ながらアラビア石油と一緒にである。

石油やニッケルなど産業資源におおきく値をあげるものが目立つにかかわらず、川中や川下への価格転嫁が難行している。疑問を説く小論文がダイヤモンドに掲載されていましたご参考までにコピーを同封致しますのでご興味がありましたらご一読下さい。

☆ 3月の魁基準建値は232円/kgです

2月の電気銅建値は1～3日240円4～20日230円21～29日240円で平均銅格は235円でした。3月の電気銅建値は230円でスタートしました。したがって3月の魁基準建値は $(235 + 230) \div 2 = 232.50$ 円未満切り捨て232円になります。価格帯は前月同様250円以下の欄になります。



発行12年4月3日

學帽を耳に支えて入学す (上野 泰)

入学式は小学生だけでない。しかし、親も子も強い喜びと深い感激を覚えるのは小学校の入学である。少し大きめの制服を着て、母親に付き添われて入学式に向かう小学生を見ると、前途幸多かれと願わずにはおれない。

桜便りが西から届いた。いよいよ春本番だ。花冷えという季語があるが、この時季は日中気温があがっても朝夕結構冷えることがあり、身体の変調が起きやすい。小淵首相が倒れて入院されたが、老齢になると無理がきかない。60代にはいると体力の低下を自覚するが、70代にはいるとそれはいちだん著しくなるらしい。個人差のあることだから一概には言えないが、気力や知力も変わって来るはずである。国会で名誉議員制度が検討されているようだが、国会議員にも定年制を設けて老害を防ぐことが必要なのに、変なところで敬老精神を発揮してもらっては迷惑するのは国民である。国会は乱闘の場であるから、老人より若手のいきのいいのがよい。これは冗談だが、実際、地盤看板に頼り、国の未来より自己の保身を最優先する政治屋は不要だ。我々が望んでいるのは国家の衰亡を憂い、真剣に日本の将来を語り、そのために身命をささげる気骨のある若い政治家を国会に送り込むことである。今年は選挙がある。たかが一票で世のなか変わらないと無関心をきめつける人が多いが一人一人が動かないと世の中変わらない。このままでは日本は衰亡を待つのみである。もはや手を拱いているときではない。自分の考えを一票にこめるべきである。

☆4月の魁基準建値は222円/kgです

3月の電気銅建値は1～8日230円9～23日220円24～31日230円で推移し平均銅価は225円45銭でした。4月の建値は220円でスタートしました。従って4月の魁基準建値は $(225.45 + 220) \div 2 = 222$ 円72銭円未満切り捨て222円になります。価格帯は250円以下の欄で変わりません。



発行12年5月8日

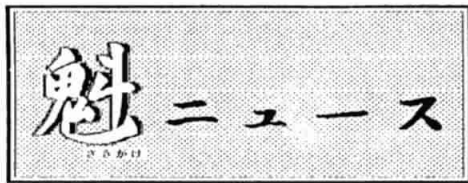
今年の大型連休は好天が続き文字通りのゴールデンウィークになりました。お隣の中国も消費需要を刺激するために、国策でメーデー休日を増やし大型連休にしたそうです。人が動けばお金も動く。お金が動かなければ景気も良くならない。お金が動いて廻ればお上に入る金は自然に増えていく仕組みになっているから、国が休日を増やそうとするのは日本のことだけではないんですね。

それにしても、この好季節にまとめて休暇がとれるのは理屈抜きに有り難いことです。思う存分フレッシュできた人、家族サービスでクタクタになった人、田舎へ帰った人、家庭菜園に励んだ人、たまった片付け仕事をした人など様々だろうが、日頃したくても出来ないことが出来る素敵な休日であります。おまけに最後の日曜日はいいお湿りで家でゆっくり体を休められた方が多かったのではないのでしょうか。

さて、今日からはまた仕事に舞い戻り精をださねばなりません。しかし、売り上げは思うようにあがらず集金の寄りも悪い。借金棒引きで経営責任もとらず、営業継続できる結構な世の中だから真似をする人が増えて倒産ラッシュになってきました。その昔、日本には「恥の文化」があると海外に紹介されたが、今の日本にはそれが乏しくなっています。責任をとり潔い身の処し方をする人が希有で取引先に迷惑をかけてもしゃーしゃーとしている。開き直られて泣き寝入りするのはしゃくだが、盗人に追銭も嫌だし、やられ損を甘受せざるおえない。やり放題、無責任を実刑で咎める仕組みができてもいいのではなかろうか。現実逆行で民事更生法が発令され、債務の切り捨てによる企業の延命を助長している。膨大な借金を抱える企業には福音かもしれないが、構造改革が急務の日本経済再生を阻害する悪法といっても過言ではないだろう。中途半端な企業救済は健全な企業の足を引っ張り景気回復を遅らすことに繋がると思うのだが如何であろう。

5月の魁基準価格は222円/kgです

4月の電気銅価格は1～16日220円17～30日210円で推移し平均銅価は215円でした。5月の電気銅建値はLMEの銅在庫の減少を反映して国際価格が150\$/t騰ったことから一挙に20円騰り230円でスタートしました。したがって5月の魁基準建値は $(215 + 230) \div 2 = 222.50$ 円未満切り捨て222円になります。価格帯は250円以下で変わりません。



NO 234

発行 12年6月1日

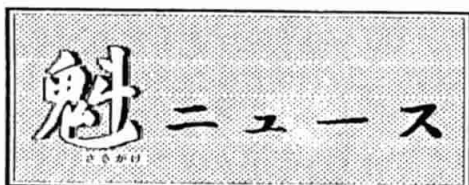
紫陽花の末一色となりにけり (小林一茶)

今年もはや5ヶ月を経過したが、4月以降も低調で動きがよくなる。そのうえ倒産件数が増え、取り巻く環境は最悪の様相を呈している。IT関連産業が絶好調で設備投資額が大幅に伸びているが、他の産業への広がりは見られず、公共投資から民需へ景気のバトタッチが進み自律回復に向かうという景気対策のシナリオが実現するとは考えられない。財政建直しを後回しにして景気回復のため積極的な公共投資を推進してきたが、この特效薬がきれてまた元の病状に戻ってしまいそうな、そんな感じがする。昨年、IT革命を先取りしたハイテク株の大幅な上昇により水準を上げた日本の株価も今年に入って大幅に下落した。息の長い上昇を続けてきた米国株式市場もここへきて足踏み状態になっており、いつ反落するやも知れぬ不安が芽生えて来ている。もし懸念される事態になれば、日本のみならず世界の株式市場が大きなダメージを受け深刻な大不況が襲う。その可能性は結構高いのではなかろうか。かかる時の防衛策として手許の流動性資金を確保しておくことが肝要である。金利はまだまだ低水準が続くであろうし、借入枠を増やしておくのも良い。

6月は選挙月になる。数合わせのため変な組合せで与党を形成していることへの国民の審判がどうであるのか注目される。どこが組んでも21世紀のわが国の針路を明示できない政治に対する失望が国民の無関心を呼び、低調な投票率に終わってしまうことのないようお願いしたいものである。我々が政治にたいして物もうせる唯一の機会だから棄権しないで自己の思いを一票に託すべきであろう。

☆6月の魁基準建値は230円/kgです

5月の電気銅建値は230円で終始しました。6月の電気銅建値も据え置きで230円でスタートしました。従って6月の魁基準建値は230円になります。価格帯は250円以下の欄で変わりません。



NO 235

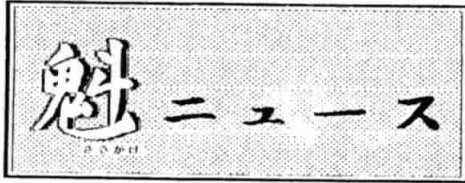
発行 12年7月3日

梅雨明けしならん木々照り草そよぎ (星野立子)

選挙が終わり組閣作業に大忙しである。大臣の椅子は政治家には是非にも欲しい垂涎の的である。この人選には派閥の親分が子分の登用を強力に押し出してくるが、勤続功労章を与えるべく、派閥の親分は一肌も二肌も脱ぐわけである。時々そのへんの無理が露呈して任期半ばで辞任に追い込まれる大臣も出る。野党勢力が拮抗してくると、なおさらそういったことが多くなる。官僚が作成した答弁書を棒読みする大臣を信任し国会に送っているのは我々であり、地元のために予算をとり仕事をまわしてくれる政治家や冠婚葬祭や就職の面倒見のよい代議士を便利屋感覚で選んでいる我々の参政意識の低さが為せることと言えなくもない。政治は現実には官僚が握っており、官僚は現体制を保守し改革には強い抵抗を示す。今日の日本が抱える経済、教育、外交などの諸問題を真剣に考え、行動する政治家を国民は渴望しているはずである。改革に抵抗する官僚や出る杭を打つがごとき政治屋など阻害要因を排除するには選挙制度を改め、首相を公選制度に、中央官僚のトップクラスは首相がプレーンを活用できるようにし、行政権限は地方にどんどん移し、民間にまかせる部分を増やして、行政をスリムにしていくべきである。いまのままでは改革は遅々として進まず国債の増発で遠からず発行残高はGNPの2年分にもなろう。借金漬けで酷税に泣きを見るのは我々でなく我々の子や孫である。わりにましなことを言っている政治家もいるのだが、わからん連中が離れ、いまや小政党になってしまっている。このたびの選挙結果にも失望の念を禁じえないし、新内閣の発表をみてもなんの感慨もおぼえない。若い人が投票に行きたがらないのがよくわかる。どうにもならない閉塞感をみんな抱いているのではなかろうか。政治が変わらないと日本は変わらない。変わらない日本はアジアの二流国になる日を待つのみである。

☆ 7月の魁基準価格は221円/kgです

6月の電気銅建値は1～7日230円8～30日220円で推移し平均銅価格は222.27円でした。7月の電気銅建値は220円でスタートしました。従って7月の魁基準建値は $(222.27 + 220) \div 2 = 221.13$ 円、円未満切り捨て221円になります。価格帯は250円以下で前月同様変わりません。



発行 12年8月1日

今年の梅雨は空梅雨ぎみでゴルフ場の芝も日焼けして水がほしいと喘いでいるように見える。日照りが多く暑いのは米作や季節商品を商うところには嬉しいことだが、適当にお湿りもないと厳しい。

IT革命は沖縄サミットにおいても、その促進と協力が謳われた。関連産業の超繁忙ぶりには驚かされる。日本半導体製造装置協会が7月25日に発表した2003年迄の半導体・液晶パネル製造装置の需要予測によると2000年度の半導体製造装置の販売額は1兆7326億円で前年度53、3%up 2001年度は18%増え2002年度2、8% 2003年度0、8%増と見ている。一方、液晶パネル装置は2000年度2912億円前年度比89%増 2001年度は日本、台湾、韓国の旺盛な設備投資で需給バランスが崩れ20%減に転じるが2002年度には19、4%増で回復すると見込んでいる。

装置数は金額ベース以上に増加しており、非鉄金属も昨年秋以降受注量は急速に上昇している。日本伸銅協会の発表によれば燐青銅の1998年度比60%弱の増加を筆頭に銅条も2年連続2桁台の伸びでフル操業が続いている。薄肉化が進んでいるから圧延長さでいえば倍近い伸びになっていると考えられる。この影響は一般材向けの供給に及び、最も採算の悪い建材用は自然に生産減になり、荷練りが多少窮屈になってきている。この機にロールマージンを回復させる動きがでてきており、アルミ厚板やステンレスなどにもそのような動きが見えてきている。

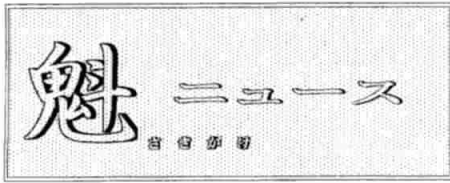
一方、ITから外れた産業はさっぱり元気が出てこない。景気回復の障害は建設、金融、官庁、流通、農業の5業種にあり「献金還流はノー」の語呂合わせになっている。政界に献金し税金からの還流に期待するような商売はやめてくれと国民の声を反映しているから面白い。我々はこの5業種の2つに関連しているから瀕死の重傷を負っているようなものだ。全員が快癒する見込みは到底叶わず生き残れるか生き残れないかのサバイバル競争にある。取引先の倒産に遭遇することを避けようとしても、土砂降りのなかを傘をさして歩いて全く濡れずに歩むことが不可能なように、なかなか難しい。細心の注意と備えをして歩むよりいたしかたない。

49代表校がきまり甲子園球場で鍛えぬいた球児たちが繰り広げる熱戦が始まる。これが始まらないと夏は終わらない。

残暑厳しき折柄、皆様にはくれぐれもご自愛賜りますようお願い申し上げます。

☆ 8月の魁基準建値は234円です

7月の電気銅建値は1~12日220円13~23日230円24~31日240円で推移し平均銅価は229円でした。8月の電気銅建値は240円でスタートしました。従って8月の魁基準建値は $(229 + 240) \div 2 = 234$ 円50銭円未満切り捨て234円なります。昨年まで高水準だったLMEの銅在庫は今年に入って減り続け、需給の好転を反映しており、長い間低迷していた銅価格も底ばなれしたと考えられます。



No. 237

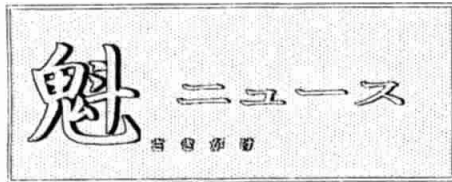
発行12年 9月 1日

今年の夏は雨が少なく暑い夏だった。地球の人口が年々増加し消費するエネルギーが増大するなかで、地球の気温が漸次上昇していることは歴然としている。緑地の砂漠化も進んでいる。最早、異常気象でもなんでもない。量的蓄積が質的变化をもたらすとはこういうことなのだ。暖冬、猛暑がごく普通のことになっているのだと考えるべきだろう。猛暑の御蔭でクーラーがよく売れた。当初620万台と予想されていたが、700万台を超えたようである。中国、東南アジアの諸国でもその普及は目覚ましく、クーラーの御蔭で生産性は昔日とは比べるべくもなく向上していると聞く。私たちの仕事場も通勤電車も車も地下街もクーラーが良く効いて、おかげで夏ばてで倒れたということも聞かなくなった。科学の発達之恩恵で快適な生活ができるようになった一方で自然と共生することから我々はどんどん遠ざかっているように思う。先人が自然と共生するなかで編み出してきた生活の知恵、言い換えれば暮らしの文化が急速に過去のものになっている。夏障子、竹簾、花ござ、油団（ゆとん）、籠枕、蠅帳、蚊帳、風鈴、打水、行水、縁台などは夏の風物詩だったがいまはほとんど見かけなくなっている。想えば懐かしい。便利で快適な生活を得た一方で、自然と離れ、自然を破壊していつてるのが現代の私達である。

☆ 9月の魁基準建値は240円/kgです

8月の電気銅建値は240円で終始し9月の建値も240円でスタートしました。従って魁基準建値は240円になります。価格帯は250円以下の欄で変わりません。

先月の魁ニュースで触れたことですが、IT産業の好調を映して伸銅メーカーはフル操業のなかで納期遅れを出し、採算の悪い建材用銅板・条は自然に減産になり、当社の荷繰りも窮屈になってきています。この状況は少なくとも年内一杯続きそうです。建築関係は需要減と価格競争で誠に厳しい環境にあります。伸銅メーカーにおいてもニーズの高度化に対応するため採算の悪化を招き、リストラなどの合理化をすすめ採算の回復を図ってますが、未だ水面下にある企業が多いのが現実であり、採算割れ商品のロールマージンの引き上げを申し入れてきております。マーケットの厳しい状況を熟知している我々には受け入れがたいことですが、供給責任を果たすためにはメーカーの要請に協力せざるを得なくなりました。お得意先の皆様にかかる折りこのようなお願いを申し上げることはまことに心苦しいのですが何卒諸事情ご賢察のうえ、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



発行12年10月2日

二十世紀最後を飾るシドニーオリンピックが幕を閉じた。日本と2時間の僅かな時差だからテレビ観戦の機会が多く開会式閉会式共にたっぷり観賞できた。日本選手が活躍する場面では応援にも力が入り勝つと嬉しくて拍手する。柔道、女子水泳、体操、マラソン、シンクロナイズドスイミングなど日本の選手はよく頑張ったが、柔道をべつにして女性の活躍が目立ち、それに引き替え男子選手の活躍がすくなく淋しかった。体格や基礎体力の差などどうしようもないものもあるが、選手育成基盤の充実を計り、国際的に活躍する選手を増やしていかなければならない。

今、大阪は2008年のオリンピック大会開催地に立候補し招致運動を進めている。ところが、これが地元大阪でもいまひとつ盛り上がらない。市の関係者が一所懸命にやってるなあという程度なので、中国に持っていかれそうでかなり旗色が悪そうである。これは単に大阪でやることでなく、これからの日本が観光に力をいれ世界中の人々が是非一度訪ねてみたいと思う国にするためにも、国家プロジェクトとしてやるべきことでなかろうか。オリンピックは世界の国々から将来を背負ってたつ若人が大勢集う大会である。アテネオリンピックの次の開催地は2002年決定される。単に大阪市のことと放っておかず、招致委員長に大物を据えて、精力的に取り組んで欲しいと願うやせつである。スポーツの秋、芸術の秋、味覚の秋、食欲の秋、読書の秋等々秋は多彩である。野山も色付き初めハイキングも絶好の季節、この好季節をおおいに堪能し、貯まりがちなストレスを吹き飛ばしましょう。

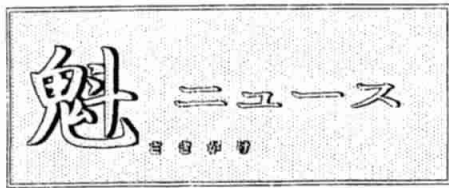
☆ 10月の魁基準建値は248円/kgです

9月の電気銅建値は1～12日240円、13～30日250円で平均246円でした。10月の建値は250円でスタートしました。従って10月の魁基準建値は $(246 + 250) \div 2 = 248$ 円になります。価格帯は250円以下の欄で変わりません。

か弱点を放置することに通ずるのである。改善は一朝一夕にはならないが、日本の将来を左右する重大な問題であるだけに先送りはできない。経済、外交などは外圧が絶えずありそれがきっかけになって変化していくが教育問題は我々日本人自身が日本の未来、子孫の幸せのために考え改善していかねばだれもやってくれないし、世界の人を喜ばせるだけなのだ。

☆ 11月の魁基準建値は243円/kgです

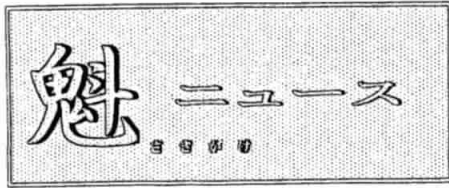
10月の電気銅建値は1～24日250円25～31日240円平均銅価は247円62銭でした。11月の電気銅建値は240円でスタートしました。従って11月の魁基準価格は $(247.62 + 240) \div 2 = 243.81$ 円未満切り捨て243円になります。価格帯は250円以下の欄で前月同様変わりません。



秋の訪れが平年より約2週間ずれているそうだが、ようやく朝晩は晩秋の趣を感じる冷えこみになってきた。炬燵やストーブをだしてきたご家庭も多いことでしょう。この季節になると風呂にゆっくり浸かり全身を暖めるのがなにより体に良い。夜中に目覚めることもなく朝まで熟睡でき目覚めもさわやかになる。まだ明けやらぬ寒い朝暖かい寝床を離れるのは辛い、よく寝れば跳ね起きるのが苦にならない。最近パソコン遊びでついつい夜更かしをすることがあるがそういう朝はどうもすっきりしない。動物には冬眠という手もあるが、我々人間はそうはいかない。寝ることにも体力が影響するらしく、年とともに眠りが浅くなるせいか、居眠りすることがおおくなってきて、のべにすると結構な時間寝てるのだろうが、熟睡という睡眠の深さに違いがあるのかもしれない。だから面倒でも就寝前風呂に入り体をしっかり暖める。

最近読んだ本で興味深く読んだ本をご紹介します。清水馨八郎著「破約の世界史」祥伝社¥1800。白人が非白人世界を軍事力と謀略で侵略してきた1000年の歴史を考察し、白人の世界侵略は、今日、グローバルスタンダードの名のもとに自国の都合の押しつけという形で続いているが、彼らの闘争性、権力性、嫌悪性、破壊力が全人類を滅亡に追い込む恐れがあり、それを防ぐためにも平和性、寛容性、温順性、調和性の日本の文明を世界に普遍することが世界を救うと説いている。

日本は四海に囲まれ、鎖国しキリスト教の普及を拒み、アジアにおいて唯一植民地になることなく、独自の文明を育ててきた。幕末のころ、既に識字率は男子50%女子25%と欧米を凌ぎ（その頃英国は男子25%女子0%）町人や百姓の子も寺子屋で読み書き算盤を習い論語を学んでいた。明治維新以降積極的に西洋文明を取り入れながらそれを咀嚼し日本独自の文明を保持しながら工業や軍事力を短期間のうちに列強国に伍すレベルに達したのは、日本人が高い知識、知能、見識を備えていたからである。和魂洋才、これが開国以後の日本人の基本理念だった。出る杭は打たれる。有色人種の日本がアジアの盟主国になるかの勢いをみせていることが白人列強国には我慢できず、さまざまな干渉のあげく戦争に引っ張りこんだ。国力の差はいかんともしがたく、見事敗戦。しかしこの戦争が植民地支配を長く受けていた国々を鼓舞し独立へのひきがねになったことは紛れもない。灰燼と化した国土のなか、日本人は高い能力と勤勉性で懸命に働き、工業力では世界有数の国に復帰した。経済も豊になり富の再分配も社会主義国より公平で、中流意識層が多い。しかし今日、産業革命以来の大きな変革の時代を迎え日本の将来を考えると、再考を要する課題が山のごとくあるのだが、わけても最も大事なものは日本の未来を支える青少年の教育のことである。近年とみに青少年の学力が低下してきており、とくに算数の基礎学力は国際水準以下のレベルになっている。国力を高める原動力はその国民の資質にかかわっているから、青少年のときに基礎学力をつける教育をしっかりとっておかねばならないのに等閑にしてきたからであろう。とくに小中学校の義務教育の段階の教育が大切で、この段階では個性を伸ばす教育より基礎学力を付ける教育に重点をおき、個性を伸ばす教育は高校以上の段階でよいはずだ。個性を伸ばすというのはまことに耳障りがよいが、欠点と



発行12年12月1日

20世紀も1ヵ月を残すのみとなりいよいよ新世紀に入る。世紀末といえば不安、混沌など暗いイメージが浮かんでくるが、新世紀という言葉から浮かんでくるイメージは夜明け、刷新、希望など明るい。そんな期待を抱いて新世紀を迎えたいが、残念ながら21世紀の幕開けはまことに厳しいと言わざるをえない。20世紀後半平和と繁栄を謳歌してきた日本丸はここ10年羅針盤を持っていない船のごとく漂い続け、何処え向かおうとしているのかさっぱりわからない。公的資金をうけいれた銀行はゼネコンの債務切り捨てに応じ、そのゼネコンは下請けを叩くかたはら政治家には献金を続け、政治家は地盤看板に執着し国益を忘れている。三つ巴になって収拾のつかない繰り返しである。国も自治体も財政は大幅な赤字続きで、国債も地方公債も発行残高は増加の一途、このままいけば紙切れになる日がくるのは必至といえよう。先行指標の株式市場はITブームも冷めてナスダックに連動して低迷しているが、東証平均が12000台におちこんだら銀行の含み益が素っ飛んで膨大な含み損が発生し、健全な銀行が一行もないことになる。もしそのようなことになれば、強行される借金の取り立てに経済界は大地震でガタガタ、倒産する企業が続出するであろう。IT革命の進行のなか、好調な分野もあるが、いつまでも続くものではなく、翳りがでてきた時の代役が見当たらない。消費需要に好景気を引っ張る力はない。雇傭条件も悪化し、パートタイムや季節雇傭が増え失業率以上に労働コストの低減化が促進され、国民は将来に対する不透明な不安を予知し生活防衛に向かっている。100円ショップやユニクロが繁盛してスーパーや百貨店の売り上げが落ち込んでいる状態がそれを如実に物語っている。老後に備えた生命保険も契約どおり履行されなくなりそうだし、年金も負担が重くなり、健康保険の自己負担率もあがってきた。企業の法定福利厚生費の負担も重くなっている。いまは海外から安い労働力で生産された低価格なものがどんどん輸入され、物価安が所得減をカバーしているが、いずれ円売りすなわち円安になって、物価高に跳ね返り一層日本の経済力を弱め我々の生活を脅かすであろう。

このようにきわめて厳しい前途を考察すれば、日本丸に乗船しているものすべてが、昔のようにいつか良くなる日がくるなどと甘い期待をせず、もっと厳しい環境になっても適応していけるよう智慧をはたらかせねばならないといえよう。変化はめまぐるしく早い。国家も企業も個人も変化に適応できたもののみが生き残れるのが21世紀なのだと言いたい。

最後になりましたが、この一年たいへんお世話になりました。皆様より賜りましたご愛顧にあつくお礼申し上げますとともに新年度も何卒よろしくお引き立てのほどお願い申し上げます。寒にむかう時節柄、御自愛賜わり佳き新年をお迎え下さいますようお祈り申し上げます。

☆ 1 2 月の魁基準建値は 2 3 6 円 / kg です

1 1 月の電気銅建値は 1 ~ 7 日 2 4 0 円 8 ~ 3 0 日 2 3 0 円で平均銅建値は 2 3 2 円でした。1 2 月の電気銅建値は 2 4 0 円でスタートしました。したがって 1 2 月の魁基準建値は $(232 + 240) \div 2 = 236$ 円になります。価格帯は変わらず 2 5 0 円以下の欄で変わりません。